

安全データシート

作成日 2020 年 4 月 30 日

製品名 Nutri DG FW スタート

1. 製品及び会社情報

対象物の名称

製品名	Nutri DG FW スタート
米国製品名	The Andersons Nutri DG Dispersing Granule Technology 18-24-5
米国製品コード	APPJ186WDG4
肥料登録番号	輸第 105928 号
肥料登録名称	APPJ186WDG4
社内 SDS 整理番号	202004-A
製造元	
会社名	The Andersons Lawn Products
住所	PO Box 119 Maumee, Ohio, USA 43537
電話番号	+1(0)-419-893-5050
輸入元	
会社名	東洋グリーン株式会社
住所	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-33-8
電話番号	03-3249-7731
担当	毒物劇物取扱者

用途

本製品は、主に芝生地に用いられる粒状肥料である。

2. 危険有害性の要約

ピクトグラム



注意喚起語

警告

危険有害性

H320 眼刺激

区分 2B 眼刺激

H335 特定標的臓器有害性（単回暴露）

区分 3 呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

P264

取扱い後、手をよく洗うこと。

P305 + P351 + P338

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用
していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337 + P313

目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

P261

粉じんの吸入を避けること。

P271

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

P304 + P340	吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P312	気分が悪い時は医師に連絡すること。
P403 + P233	換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。
P501	内容物/容器を自治体の定める法令に従って廃棄すること。

GHS による危険性・有害性の分類

① 危険性 (16 分類)

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	区分外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	区分外
有機過酸化物	区分外
金属腐食性物質	区分外

② 有害性 (10 分類)

急性毒性: 経口	分類できない	
急性毒性: 経皮	分類できない	
急性毒性: 吸入 (気体)	分類できない	
急性毒性: 吸入 (蒸気)	分類できない	
急性毒性: 吸入 (粉塵)	分類できない	
急性毒性: 吸入 (ミスト)	分類できない	
皮膚腐食性・刺激性	分類できない	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2B	眼刺激
呼吸器感作性と皮膚感作性	分類できない	
生殖細胞変異原性	分類できない	
発がん性	分類できない	
生殖毒性	分類できない	
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分 3	呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	分類できない	
吸引性呼吸器有害性	分類できない	

③ 環境に対する有害性 (2 分類)

水生環境急性有害性 (急性)	分類できない
水生環境急性有害性 (長期)	分類できない

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物	
成分名	CAS 番号	含有量
りん酸アンモニウム	7722-76-1	49.1%

メチレン尿素	メチレン尿素混合物	16.1%
尿素	57-13-6	15.2%
硫酸加里	7778-80-5	10.3%
リグニンスルホン酸カルシウム	8061-52-7	9.3%

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し安静に努める。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	石鹼と水を用いて洗浄する。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。薬液の付着した衣服は再使用の前に洗うこと。
眼に入った場合	清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。症状が続く場合、眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。医師の診断があるまで無理に吐かせようとしないこと。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	粉末、泡、二酸化炭素、霧状水等周囲の物に適正な消火剤を用いる。特殊な消火剤は必要としない。
使ってはならない消火剤	棒状水を用いない。（周辺への飛散）
火災時の特定危険有害性	COx, NH ₃ , POx, SOx, シアヌル酸, NOx, HCN など分解生成物は有害であると考えられる。
特定の消火方法	漏出した物質や消火剤等が河川等に排出されないように配慮する。消火活動は風上から行う。
消火を行う者の保護	消火作業では適切な保護具（陽圧式呼吸具、手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
環境に対する注意事項	河川、湖沼、地下水等に流入しないようにする。流入する場合には、関係当局に連絡する。
除去方法	漏出物を容器に入れ、再利用する。または、法令に従い処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。作業は換気の良い場所で行う。
安全取扱注意事項	吸い込んだり、眼や皮膚、衣服に触れないよう十分注意する。マスク、保護衣、保護靴、保護手袋、保護眼鏡等を着用する。作業後は手を洗うこと。作業場での飲食、喫煙を避ける。
保管	
適切な保管条件	換気の良い室内の冷暗所に保管する。50℃未満で保管すること。混合を避ける物質を遠ざける。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	
日本産業衛生学会	設定されていない（製品）
厚生労働省告示	設定されていない（製品）
暴露限界	製品については既知の暴露限界はない。

成分については以下の参考値がある。

OSHA PEL (米国安全衛生局 許容濃度)

リン酸アンモニウム	15 mg/m ³ (総量)	5 mg/m ³ (呼吸)
尿素	15 mg/m ³ (総量)	5 mg/m ³ (呼吸)
硫酸カリウム	15 mg/m ³ (総量)	5 mg/m ³ (呼吸)

ACGIH TLV (米国産業衛生専門家会議 暴露限度)

リン酸アンモニウム	10 mg/m ³ (吸入)	3 mg/m ³ (呼吸)
尿素	10 mg/m ³ (吸入)	3 mg/m ³ (呼吸)
硫酸カリウム	10 mg/m ³ (吸入)	3 mg/m ³ (呼吸)

曝露防止

換気の良い場所で取り扱う。室内で作業する場合は換気に努める。

保護具

呼吸器の保護具	必要に応じてマスクを着用する
眼の保護具	保護眼鏡 (ゴーグル型)、保護面
皮膚及び身体の保護具	長袖保護衣、保護手袋、保護眼鏡を着用。

適切な衛生対策

取り扱い後は手を良く洗う。汚染した衣服は他のものと別に洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状	粒状
色	褐色
臭い	わずかな臭い

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

沸点	適用されない
融点/凝固点	データなし
可燃性	不燃性
爆発限界	上限 : 設定されていない 下限 : 設定されていない
引火点	データなし
自然発火点	適用されない
分解温度	データなし

pH データなし

動粘性率 適用されない

溶解度

水に対する溶解性	部分的に可溶
溶媒に対する溶解性	データなし

n-オクタノール/水分配係数 データなし

蒸気圧 適用されない

比重 データなし

相対ガス密度 適用されない

粒子特性度 データなし

10. 安定性及び反応性

安定性 通常の使用条件、輸送条件で安定

避けるべき条件 高温 (93°C 以上) を避ける。強酸、酸化剤、次亜塩素酸塩、水酸化物、強アルカリとの混合を避ける

危険有害分解生成物 CO_x、NH₃、PO_x、SO_x、シアヌル酸、NO_x、HCN

他の物質との重合 データなし

1 1. 有害性情報

本製品は、鼻、のど、呼吸器に刺激を与え、のどの痛み、咳、息切れを引き起こすことがあります。皮膚刺激が生じることがあります。

目に刺激を与え、赤みや充血を引き起こす可能性があります。長時間目に入った場合、結膜炎や角膜損傷を起こすことがあります。

摂取すると、喉の痛み、腹痛、吐き気、下痢を起こすことがあります。

急性毒性推定値 (ATE)	成分 (経口)	>2,000 mg/kg (リン酸アンモニウム) 14,300mg/kg (尿素)
	製剤 (経口)	データなし
	成分 (経皮)	> 5,000 mg/kg (リン酸アンモニウム)
	製剤 (経皮)	データなし
	製剤 (吸入)	データなし
局所効果	眼刺激性	データなし
	皮膚刺激性	データなし
感作性		データなし
慢性毒性 (最大無作用量)		データなし
発ガン性		原料から区分外と推定される。
変異原性		データなし
催奇形性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性	単回暴露	データなし
特定標的臓器毒性	反復暴露	データなし

1 2. 環境影響情報

本製品は、生態毒性、難分解性、または生物濃縮の可能性があると知られていない。

水系に大量に流入すると富栄養化によって水生生物に有害な藻類の発生の可能性がある。

1 3. 廃棄上の注意

廃棄の方法	残余廃棄物	廃棄はなるべく避け、肥料として使用する。 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体に委託して処理する。
	包装	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	該当しない
国連番号	該当しない
国際海上危険物規程	該当しない (IMDG)
国際民間航空機関危険物輸送規則	該当しない (ICAO)
米国 SARA311/312 規制	該当しない
国内規制	
航空法規則	航空・海上輸送、陸上輸送に制限はない
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない
輸送の特定の安全対策及び条件	転倒、落下、摩擦等で包装が破損しないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行い、有蓋車又はシート等を掛けて運搬する。水濡れを避ける。

1 5. 適用法令

肥料取締法	該当する	輸第 105928 号	配合肥料
労働安全衛生法	該当しない		
毒物および劇物取締法	該当しない		
化学物質排出把握管理促進法	指定化学物質に該当しない		
航空法規則	該当しない		
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない		
輸出貿易管理令（キャッチオール規制）	該当する	第 6 部第 31 類肥料	

1 6. その他の情報

安全データシートは、化学製品を安全に取り扱うための参考資料として、化学製品を取り扱う事業者を提供されるものであり、安全を保障するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この安全データシートは、一般に入手可能な情報および自社情報に基づいて作成しておりますが、本製品に関するすべての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は本製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、本製品を取り扱う事業者は、個々の取扱いの実情に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この安全データシートを活用されることをお願い致します。

以上